



## 「胡同(フートン)の理髪師」

2006年中国、ハスチョロー監督 / 105分

近年、多様化を誇る中国映画界が、万人の心をうつ感動のヒューマン・ドラマを贈りだした。それが「胡同の理髪師」である。

中国・北京の旧城内を中心にそこかしこにある細い路地、胡同(フートン)には、伝統的な建築様式で作られた庶民の古い家屋が建ち並ぶ。生活感に溢れ、古き良き都の情緒漂うスポットとして知られているが、オリンピックを控え、昔ながらの街並みは、そこに住む人の細やかな人情とともに姿を消そうとしている。

『胡同の理髪師』は、そうした時代の流れのなかで、胡同の一角に暮らす93歳の老理髪師の毎日をドキュメンタリータッチで描き、「豊かに生きる」ことの意味を私たちに問いかけている。

20日(土)		21日(日)	
		10:00~11:59	テロリズムとケバブ 休憩
13:30~15:15	胡同の理髪師	13:00~13:45	映画解説(杉本信昭監督)
15:30~17:29	テロリズムとケバブ	13:45~15:40	自転車でいこう
17:45~19:40	自転車でいこう	16:00~17:45	胡同の理髪師

## 「自転車でいこう」

2003年日本(ドキュメンタリー)、

杉本信昭監督 / 115分

自転車は何処へいくのか 大阪市生野区に住む一人の自閉症の青年。彼に惹かれ、ときには反発し、掻き回される街の人々。彼らの生み出す笑いエネルギーの中で、映画はひとつの『ありよう』を見つけ出す。それは、人間としての約束と絆を基盤にした生活が、何の無理もなく存在している姿だ。しょうがい者でも健常者でも、その人はその人のままが一番いい。お互いに至近距離まで近づいて、自分のものではない呼吸を感じ、そしてじっとただ傍にいる。人々のこの『ありよう』は街のいたる所でささやかな光を放ち、その光を拾い集めて映画「自転車でいこう」ができあがった。映画の中で、人々は自転車のペダルを踏み続ける。それぞれのスピードで、それぞれの角を曲がって、それぞれの方向へ。映画が終わっても。

◆21(日)杉本信昭監督の映画解説があります。



プーミョンと杉本監督

**9/20 sat. • 21 sun.**

会場：富田林市立 公会堂  
入場無料・申込み不要



主催：富田林市立中央公民館  
☎0721-24-3333

## 「テロリズムとケバブ」

1992年エジプト、シャリーフ・アラファ監督 / 119分

アハマドは子供の転校手続きのために教育局に行く。ところが教育局はいつも大混雑で担当者も不在。別の職員は私語に夢中で取り合ってくれない。怒ったアハマドは役所で暴れ、やって来た警官の拳銃を奪ってしまう。大ヒットを記録した社会派のコメディ映画。主人公を演じるアーデル・イマームは「エジプトの喜劇王」と呼ばれる大スター。

協力：(特活)とんだばやし国際交流協会  
富田林市中央公民館クラブ連絡会  
地域の国際交流を進める南河内の会(モザイク)  
(財)国際文化交流推進協会(エースジャパン)  
フィルム提供：国際交流基金・モンタージュ・パンドラ